

麻生備前炭坑争議 新築部留村	日本炭坑組合	八月五日	二一日	八人	
高田炭坑争議 新築部留村	日本炭坑組合	九月四日	二七日		
月隈炭坑争議 新築部留村	日本炭坑組合	一月二十日	二三日		

口、労働争議の概況

労働争議は昨年度に比し件数に於て減少を減じ、争議日数に於ては増加し争議参加員は倍増を呈し、昨年度は新築米田の争議が中心となつた。此等労働界の大衆は此の勢を減少に見せしめる。紀望的労働階級の生活不安と非常時の社会不安は争議戦術を必然にする。非合法的闘争へ馳け込らしてゐる。資本階級と官権の争議圧迫の共同闘争はこの険悪な傾向を激化させるものである。官憲のサトベルと暴力団の闘争の乱舞を見ても争議は稀れである。麻生全坑争議に於ける検束延人員二十名、赤池炭坑浸水防止争議の検束延人員九十二名及東洋硝子争議の検束延人員百八名、日全口労働者代表団同反動派の争議が資本階級の代表となつてゐる。

此の如きことは手は資本家と官権の争議に對する狂態を露骨に暴露してゐる。此の如きものである。い、い、い、連言の急進。日本と世界。福まゝ中を當れと健全なる労働組合主義の大旗を掲げ、我々の川の水の争議は階級。全労働階級の称讃するところなり。やがて全同盟現象主義の凱歌は全九州の戦野に響く。前途と輝く。

會計部報告

聯合會の會計報告は、年次大會の予算、決算存員會に附して嚴重なる審査を経て組合員大衆に報告する前例となつてゐるので、殊に本報告書中より省略する。

日本労働同盟九州聯合會役員

- 會長 伊藤卯四郎 會計監督 平岡常善
- 主事 久保時造 會計監督 東岡本郎
- 會計 城戸政雄 常任書記 勝野 潤